

28pmM-006

培養ラット胎児へのムクナの影響について

秋田 正治¹, ○横山 篤¹(¹神奈川生命科学研)

【目的】健康食品には発生毒性試験などの医薬品において義務づけられている安全性試験は負荷されていない。しかし、安全用量や至適用量は必要である。今回、ラット培養胎児を用いて健康食品のムクナの安全性について確認したので報告する。

【方法】ラット培養胎児は胎齢 11 日を用いて 48 時間培養を行った。また、ムクナの用量は 5、10 $\mu\text{g/ml}$ を用いた。

【実験結果】胎児培養の発育指標である胎児頂殿長・胎児総体節数、胎児の生理機能の指標である血液循環・心拍数において対照群とムクナ処理群との間には差は認められなかった。また、催奇形性や胎児死亡もなかった。

【考察】以上の結果から、ムクナの標準用量と最大安全量が求められた。